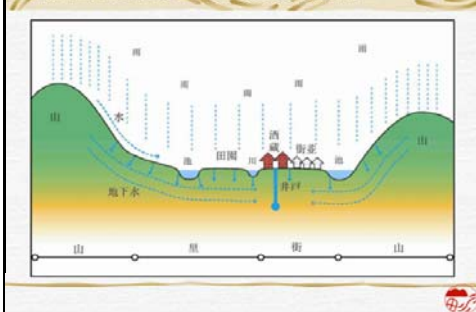


里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	国民的取組のための基盤づくり
手法名	西条・山と水の基金 山、田、水源、酒づくりを里山の資源活用と基金で結ぶ
主体	西条・山と水の環境機構、他協力団体 (西条酒造協会、賀茂地方森林組合、東広島酒米推進協議会、JA広島中央、広島県、東広島市、市民、地元企業・団体(中国電力、シャープなど)、広島大学、近畿大学、県立西条農業高校、東広島緑の少年団、黒瀬川流域の環境ボランティア団体 等)
背景 (地域の課題)	中国地方の山は標高が低く、多くが、人間が管理・利用してきた里山である。その里山の麓に位置する東広島市西条町は、良質で豊富な湧水に恵まれている。この里山と水と田の恵みのおかげで酒づくりが重要な地場産業となり、西条とその周辺には造り酒屋が9軒もある。 しかしながら、重要な水を育む里山は、かつては赤松林にマツタケなどともれる管理の行き届いた林だったが、燃料革命や木材等の経済価値の低下にともなって管理されなくなり、第一次産業の低迷に伴い田も減ってきてしまった。 水と米を原料とする酒づくりにとって、里山や農地の保全は地場産業のために必要不可欠である。この保全と酒造りを結びつけて、里山の資源を活用し、美しい風景にすることにより、地域の伝統文化産業が生きていく必要がある。
手法/方策の詳細	東広島市西条では、酒造協会関係者を中心に市民、行政、企業関係者らが連携し、西条酒1升の売り上げにつき1円の基金をつくり、その資金の一部を活用し山と水を保全する活動を行っている。 水源涵養のための山の手入れで出るバイオマスは、発酵して酒米づくりの水田の肥料にし、その米を酒づくりに活用しており、経済も資源も循環する仕組みをつくりあげている。 その手法は、 「西条・山と水の基金」を設立し、西条酒造組合加盟者の酒の売り上げから、1升1円を拠出。年間およそ500～600万円を基金を得る。基金は、山と水を守るための活動や研究の助成・支援に役立っている。 具体的には以下のような取組を行っている。 ①里山林の保全活動では、広島大学の講座として学生等が参加するしくみ。里山での除伐、炭焼きに加え、木質資源を発酵させての堆肥づくり、その堆肥を利用した酒米生産を行い、酒づくりに活用する、という循環の仕組みをつくっておく。活動は、市民参加方式で行っている。 ②教育委員会との共催での小学生向け水の環境学習と保全活動の実施。 ③大学と連携した、山の手入れ後の植生と整備の調査、水質等の調査研究の実施。 ④普及啓発活動(広報、イベント等) ⑤周辺地域等の山、水、里の環境保全団体等へ「山と水の基金報奨事業」として独自の活動資金助成
手法・技術的視点	受益者負担の基金ではあるが、酒造業者が基金を立ち上げることにより、資源と資金が循環する、地場産業と結びついた仕組みができていく。市民参加の里山・水の保全と酒米づくりや、子どもたちへの環境教育にもとりくんでおり、普及啓発も行っている。 集水域内での活動であるため、消費者や市民にも分かりやすい取組となっている。



■東広島市西条をとりまく水環境概念図



■山や川の手入れと酒づくりの循環関係



山の手入れが、保水力のある山をつくり、地下水を確保し、力のある水が川に流れ田に入り、良質の米ができ、その水と米から西条の酒が生まれます



参考資料

里なび研修会in広島 前垣寿男 西条・山と水の環境機構理事